

精神障害者のエンパワメントを促す就労支援のモデルづくり 障害と就労とのバランスの取れた働き方

なんのための研究？

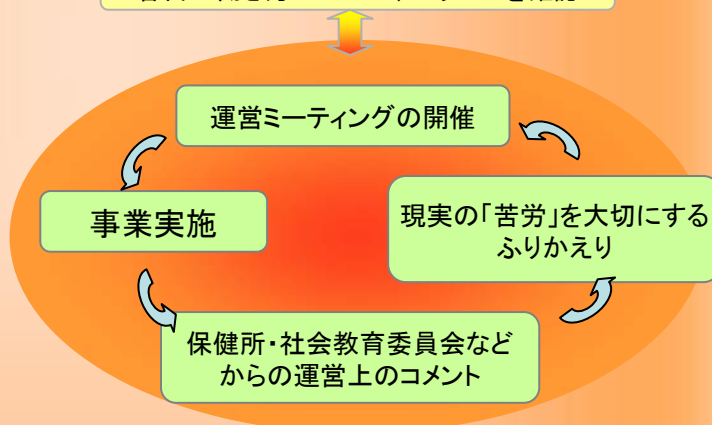
精神障害を抱えていると、独特の身体感覚や気持ちが現れます。この体験や気持ちは、周りの人にとって理解しにくいこともあり、円満な対人関係の維持が難しいことがあります。この研究の目的は、精神障害を抱える人々が継続的に働ける職場環境を保障するために有効な、支援システムのモデルを作ることです。



研究のポイントは？

- 精神障害者によるNPO法人と、北海道浦河べてるの家のメンバースタッフの働き方に着目しています。NPO法人では、精神障害者とともに運営体制を開発しました。

各自の働き方について、バランスを確認



実用化に向けて

- 浦河べてるの家の精神障害者たちとともに、NPO法人の運営体制づくりの要点を映像資料によって公表できるよう準備をしています。
- 精神障害当事者とともに、生産活動での責任を担うために必要な仕組みづくりを、映像資料として配布できるように話し合っています。



研究代表者

国立身障害者リハビリテーションセンター研究所
障害福祉研究部
間宮郁子 mamiya-ikuko@rehab.go.jp

